



# Frankfurt

## 知られざる緑の都市

河内秀子＝文 峯岸進治＝撮影  
Text by Hideko Kawachi Photo by Shinji Minegishi

街を一望できる展望台「ゲーテ塔」からの眺め。眼下にはブナやガンの木の森が広がる。



マイン川沿いに並ぶモダンな高層ビル群が印象的なフランクフルト。しかし実は、この街は豊かな自然に囲まれているのをご存じだろうか。ハーブのソースに季節を感じ、リンゴの芳香が故郷の香りだと語る人たち——。まだ見ぬ、緑のフランクフルトを探しに広大な緑地帯「グリーンベルト」を巡った。



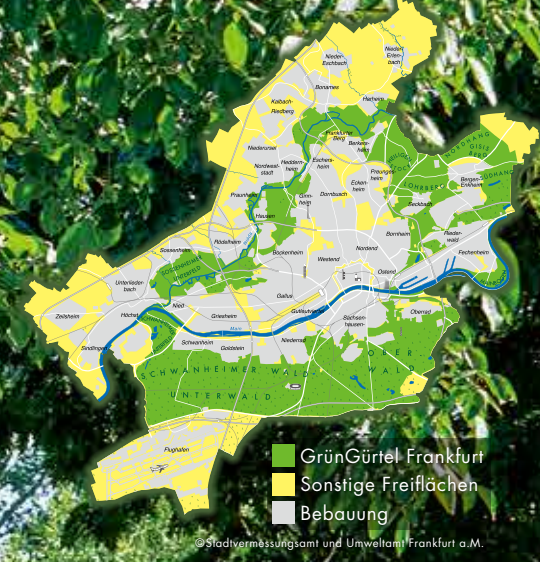
**欧** 州最大級のハブ空港があるだけでなく、欧州中央銀行が拠点を置く金融の街、フランクフルト。ドイツの街には珍しく二〇〇mを超す高層ビルが立ち並ぶ、灰色のコンクリートジャングルというイメージが強かったが、中心部から少し離れてみると意外なほどに緑が多いことに気づく。街の総面積の三分の一にあたる約八〇〇〇haの緑地が、約七〇kmにわたって街を囲んでいるのだ。この緑地帯は、今年制定から三〇年を迎える「グリーンベルト法」という法令によって守られている。

「人口が増え、住宅や交通網の拡大など開発が加速していた一九八〇年代に、次の世代に緑を残さなければ、と立ち上がった人がいた」とフランクフルト市環境局長ペーター・ドーマルムートさんが成り立ちを説明してくれた。

一九九一年にグリーンベルト法が定めた内容はとてもシンプルだという。「現在グリーンベルトとして定めた緑地帯は保護する。万が一開発せざるを得ない場合には、市内に同じ広さの緑地を造らなければならない」というものだ。そのため、三〇年間都市開発が進んでもグリーンベルトは減ることなく、現在、街の緑地の割合は少しずつ増加傾向にあるという。一九九五年には、グリーンベルトは景観保全地域に指定され、より行き届いた手入れがされるようになった。「グリーンベルトが目指している

**グ** リーンベルトとして保護されている緑の内容は多彩だ。内訳はその半分が森で、約二割が農地、そのほかは公園など市民の憩いのため

珍しいタンDEM自転車で颯爽と走る2人組。市内にはレンタルサイクルサービスも。



## 次の世代に伝えたい、豊かな緑

AGORA Special vol.359 Step into the Green City

5

4

3

2

1

1 マイン川を中心にごると街の周りに広がるグリーンベルト。川岸には並木や芝生も多く気持ちがいい。  
2 グリーンベルト内にある、欧州でも珍しい内陸砂丘シュヴァーンハイマー・デュネン。希少な植物相もあり自然保護地区に指定されている。  
3 グリーンベルト内のサイクリングルートを表す道路標識。これを目印にして目的地へ向かう。  
4 アメリカ軍が1992年まで飛行場として使っていた場所が、現在では緑溢れる市民の憩いの場。  
5 グリーンベルトのマスコットキャラクターを手にした、市環境局長のドーマルムートさん。



サイクリング  
ルートで  
出会うアート



もじゃもじゃベーターの木  
見渡す限り緑が広がる平原のなかに、ぽつんと立つ木には大きな目が！



裸足のムカデ  
ドイツ語でも「100本の足」といわれるムカデを人間の足で再現した、撮影スポット。



リスの王様  
森のインフォメーションセンターの近くの木陰に隠れているリスのオブジェ。

AGORA vol.359 Step into the  
Special Green City



## サイクリングで巡る緑の街



1  
の空間になっている。多様な動植物の生息地というだけではなく、新鮮な空気を生み出し、街の中心に送る効果もあるという。「グリーンベルトを体験するなら、サイクリングがいいですよ」とドーマルムトさんにすすめられ、さっそく自転車を借りてみた。グリーンベルトを一周するようにルートが整備されているが、特に人気があるのはマイン川の左岸に広がる森のなかを抜け、ドイツ木組みの家街道の街でもあるヘーヒスト地区へと向かうルートだという。



2  
とえば、畑もあり、途中では放牧中の羊に出会う。牧草地や公園、競技場など多彩な緑がグリーンベルトを形成していることを実感する。大きく育ったブナやカシの木が作る日陰が、汗ばんだ体になんとも心地よい。

サイクリングルー

トの途中には「おもしろアート」と題された一五個のオブジェがある。これは市内にある風刺画博物館とのコラボレーションで生まれたものだ。地図を見つつ、ちょっと隠れたところにあるアートを探しながら、寄り道するのも楽しい。広い平原にぽつりと立ち、絡まった枝を茂らせている木には、一九世紀にフランクフルトの医師が描いて世界的なベストセラーとなった絵本『もじゃもじゃベーター』の名字が付けられていた。

平原を抜けると、目の前にマイン川が広がった。向こう岸に渡るフェリーには自転車も積み込み可能。市壁の門を通ると、そこはヘーヒスト地区の旧市街。緑の間に立つパステルカラーの木組みの家はなんとロマンティック。また一つ知らなかったフランクフルトに出合い、自然と笑みがこぼれてきた。



- 1 芝をむしゃむしゃ、景観保護のために放牧されている羊たち。
- 2 マイン川を越えヘーヒスト地区に渡るフェリー。自転車も積み込み可能。
- 3 マイン川右岸のニッダ川沿いのサイクリングルートも緑が深く人気だ。
- 4 中央駅の観光案内所でグリーンベルトの地図を入手してサイクリングへ。
- 5 高さ40mを超える木製のゲート塔。サイクリングルートの起点の一つ。

数多くの木組みの家が残るヘーヒスト地区の旧市街。中世の街並みを彷彿とさせる。